

2025年2月期 通期決算説明会

2025年4月10日



イオンフィナンシャルサービス

証券コード 8570(東証プライム・その他金融)

1 2024年度 通期決算概要

2 企業価値向上に向けた取り組み

3 2025年度 業績予想及び配当予想

Appendix

決算サマリ

通期業績は順調推移 国際3エリアとともに営業収益 過去最高
資産収益性の向上に成果

業績は順調推移

連結営業収益は2桁増(YoY110%)、連結営業利益は614億円(YoY123%)と拡大

- 国内: 決済・銀行収益が拡大 費用効率の向上を継続
- 国際: 3エリアとも過去最高の営業収益 貸倒関連費用の改善により増益

資産収益性の向上 : 残高が順調拡大。国内金利環境に合わせた金利改定も寄与
国際の残高は1兆円に拡大、国内は流動化実施も残高増加、金利改定も寄与

- 国内: 7,252億円(YoY102%/ +150億円)、国際: 1兆333億円(YoY114%/ +1,277億円)

セキュリティ、リスク管理・コンプライアンス体制の強化

カード不正被害への補償費用99億円を特別損失に計上、対策により新規の被害発生抑止
イオン銀行における行政処分へ対する再発防止の実行及びグループガバナンス強化を図る

※記載の債権残高は、債権流動化実施後

※高利回り営業債権: 国内リボ・分割、キャッシング、無担保ローン及び国際事業における債権

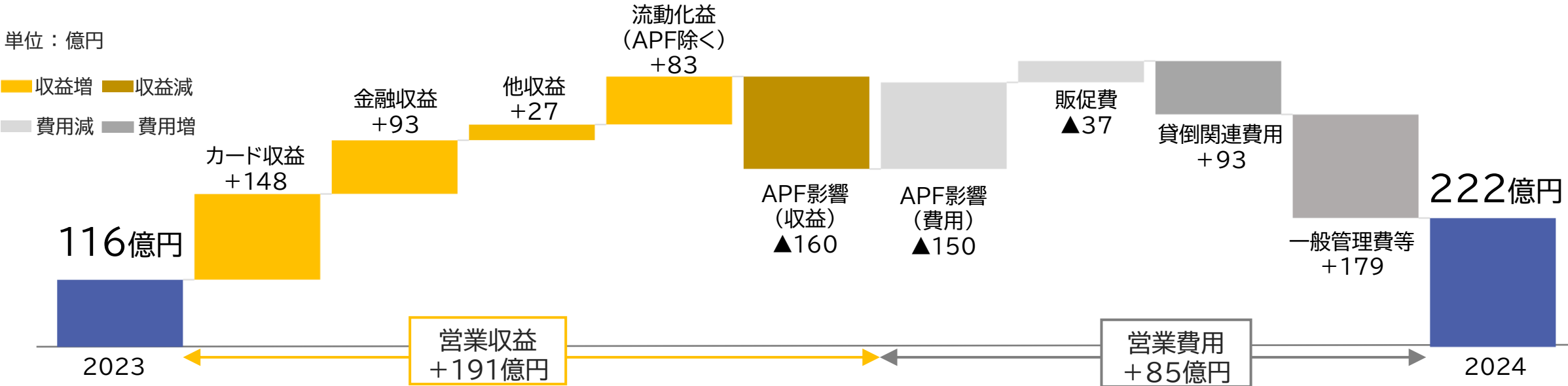
2025年2月期 通期 連結業績ハイライト

- 国内事業の回復がけん引し、営業収益、営業利益が拡大
- 特別損失に、特殊な手口によるカード不正利用への補償費用を計上

	連結		YoY		国内		YoY		国際		YoY	
営業収益	5,332 億円	110 %			3,131 億円	107 %			2,225 億円	115 %		
営業利益	614 億円	123 %			222 億円	191 %			387 億円	101 %		
経常利益	625 億円	122 %			1株あたり配当金				配当性向			
親会社株主に 帰属する 当期純利益	195 億円	93 %			年間: 53 円				58.6 %			
					中間: 25 円							
					期末: 28 円							

[国内] 通期営業利益 前期差内訳

- カード収益の拡大、金融収益や流動化益による増収が、貸倒関連費用などの費用増を上回りYoY106億円増益



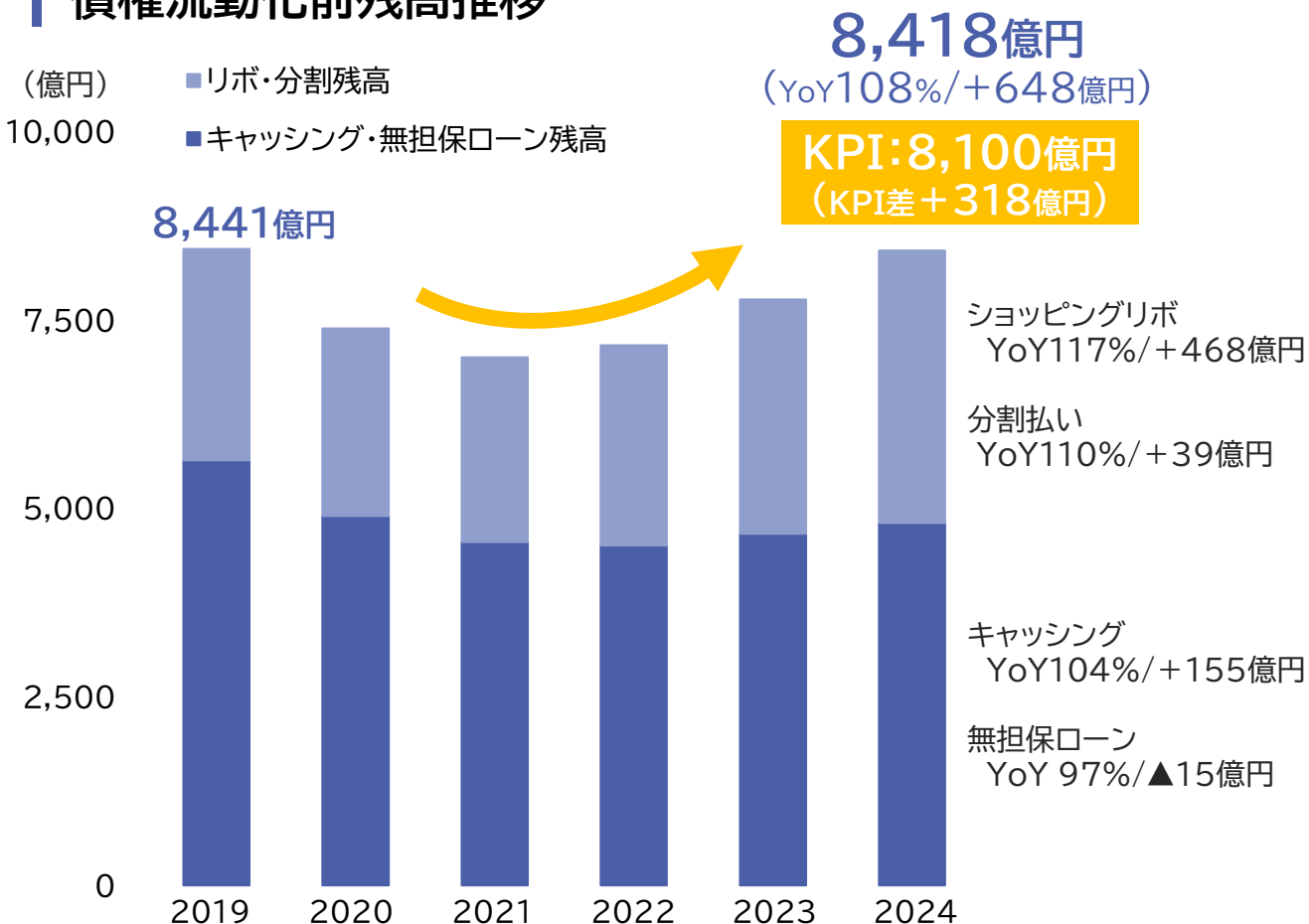
主な内容	[営業収益]	
	・カード収益	+148億円 (包括信用購入あっせん収益+110億円、融資収益+37億円)
	・金融収益	+93億円 (利息・配当+46億円、有価証券売却益+34億円、貸出金利息+14億円)
	・他収益	+27億円 (フェリカポケットマーケティング連結影響 +20億円、 保険販売手数料(役務取引収益)+6億円)

[営業費用]	
・販促費	▲37億円 (販促費の効率性向上)
・貸倒関連費用	+93億円 (営業債権残高拡大による増加、不正被害による補償を含む)
・一般管理費等	+179億円 (金融費用+68億円、人件費 +31億円、国際ブランドフィー +18億円、 フェリカポケットマーケティング連結影響+17億円)

[国内] 高利回り債権残高の状況

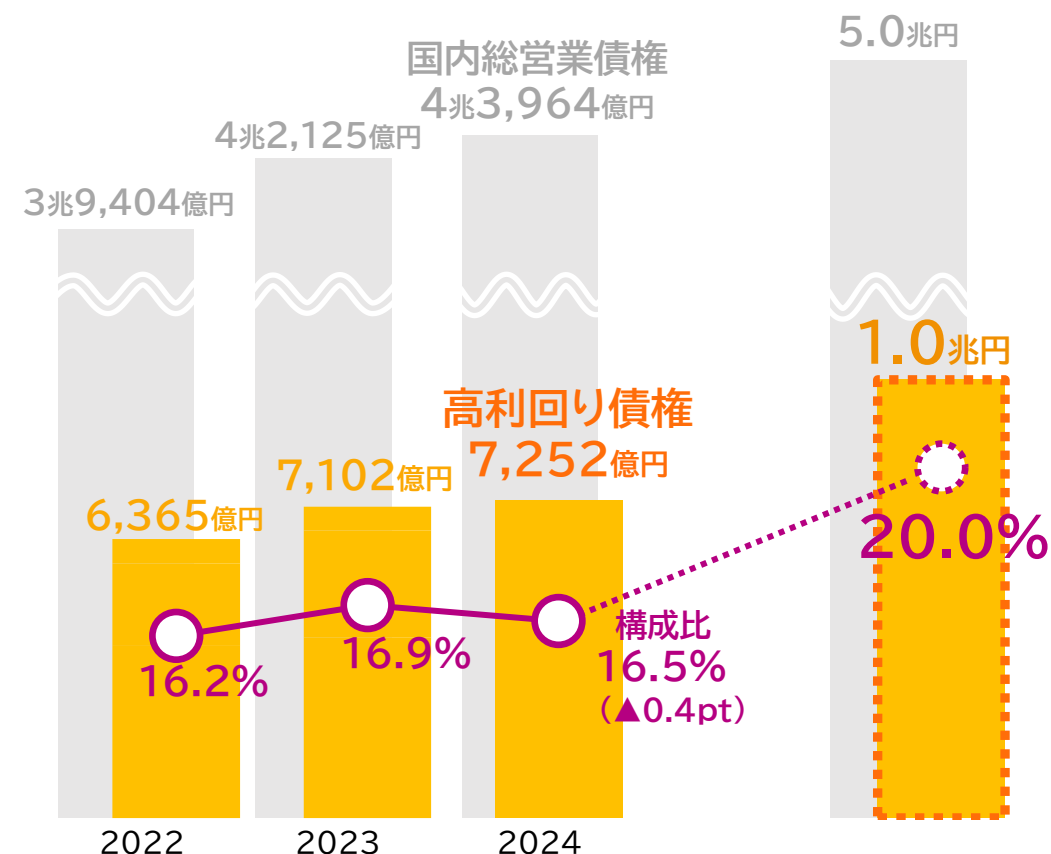
- ・ 強固な収益基盤構築に向けた残高獲得が順調に進み、期末債権残高KPI 8,100億円(債権流動化前)を達成
- ・ リボ債権の流動化実施により高利回り債権構成比は前期を下回る 構成比拡大に向け今後も注力

債権流動化前残高推移



高利回り債権比率と残高推移(債権流動化実施後)

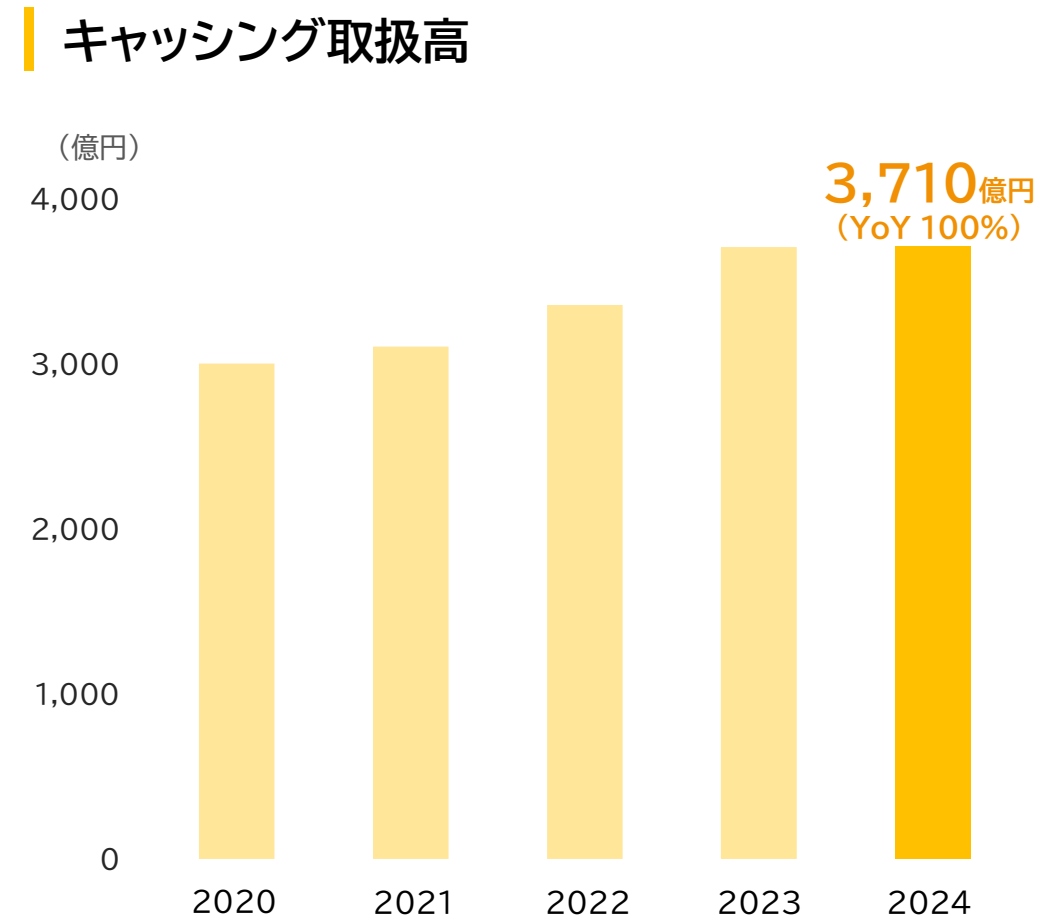
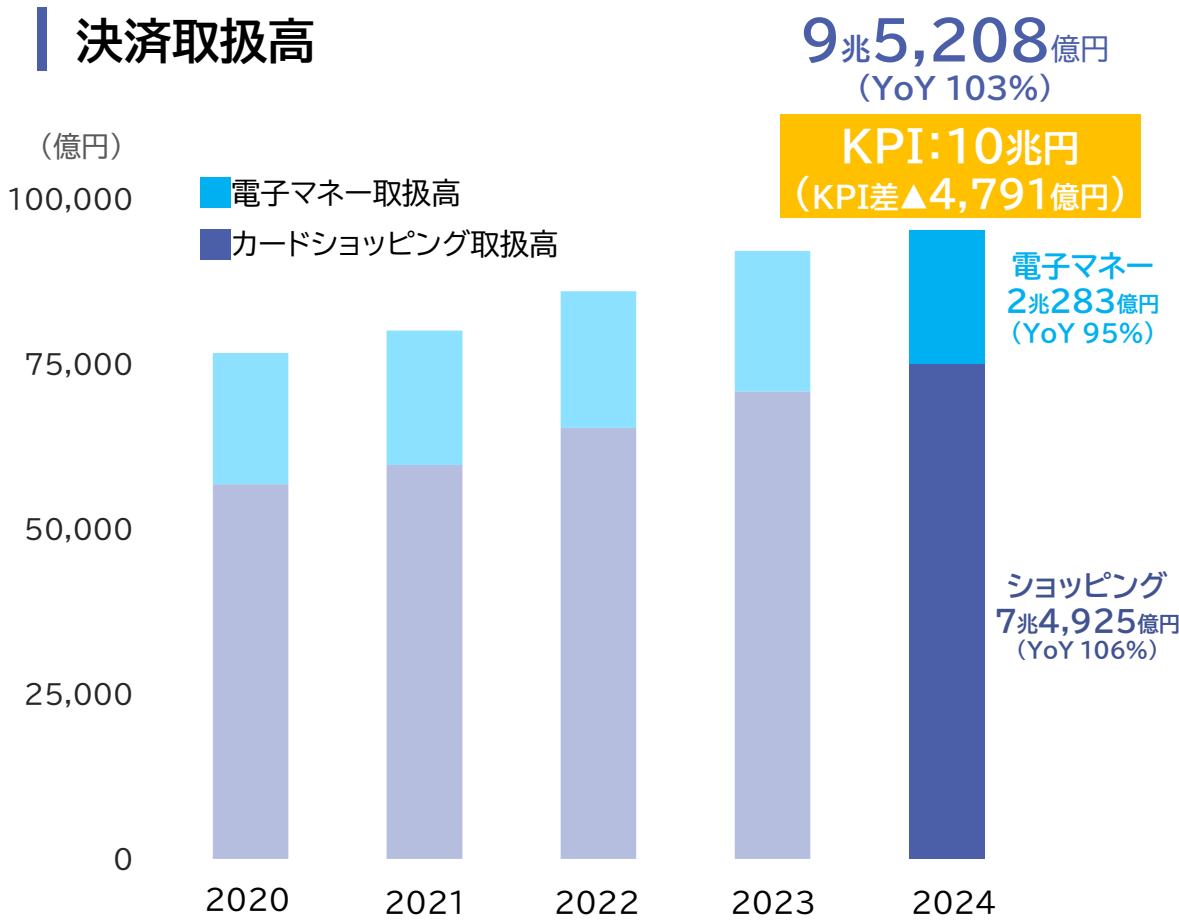
※高利回り債権:リボ・分割、キャッシング、無担保ローン



[国内] クレジットカード、電子マネー

生産性
(収益拡大)

- 決済取扱高はゴールドカード限定お客さま感謝デーやAEON Pay利用促進が貢献
- キャッシング取扱高はAIを活用した営業活動により、市場の取扱高が低下する中で前年を上回る

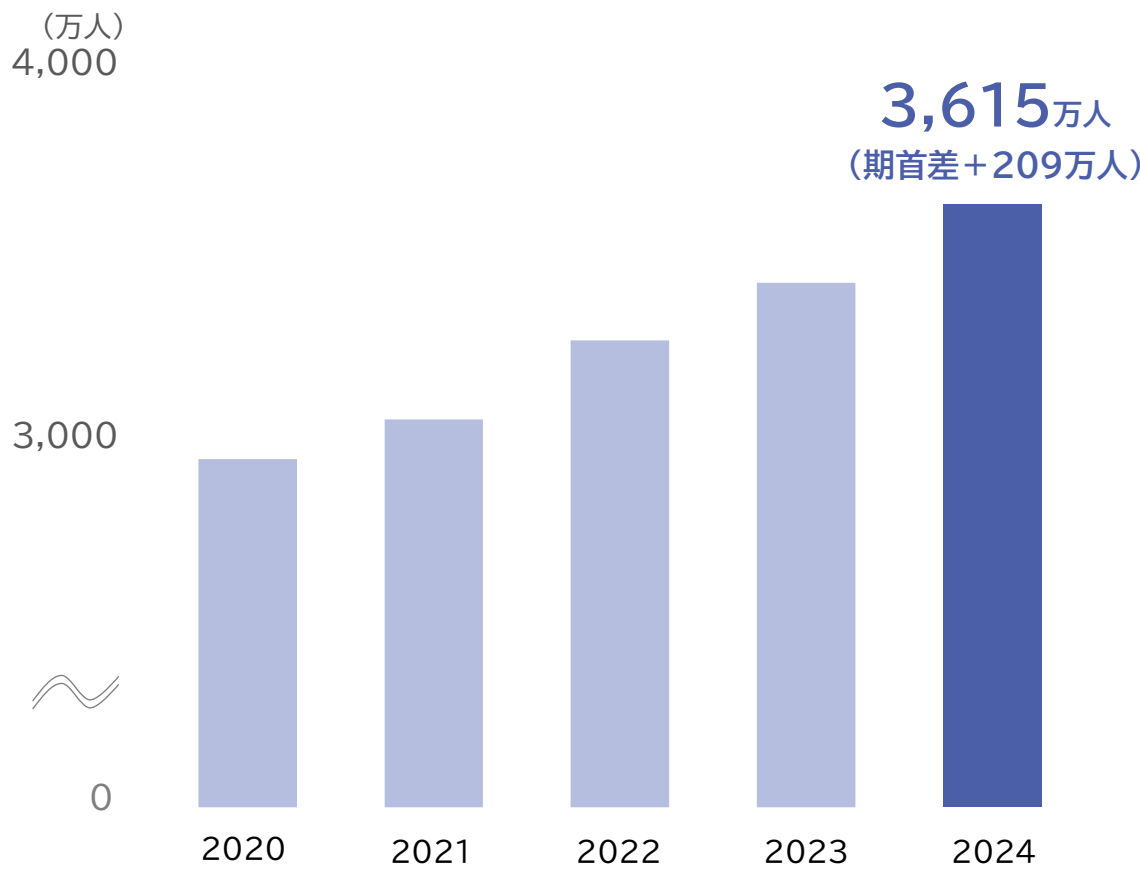


[国内] 有効IDの状況

生産性
(収益拡大)

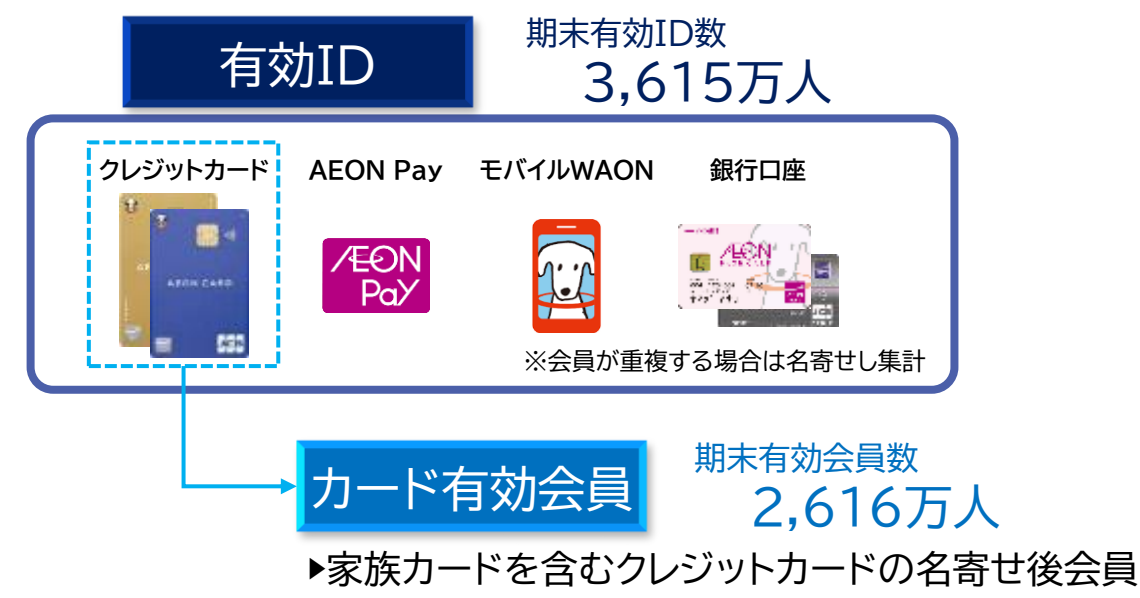
- 拡大する商品・サービスに合わせ、「有効ID」として開示
- AEON Pay等を通じた新たな会員基盤の拡充に取り組む

国内有効ID数



国内会員定義の変更

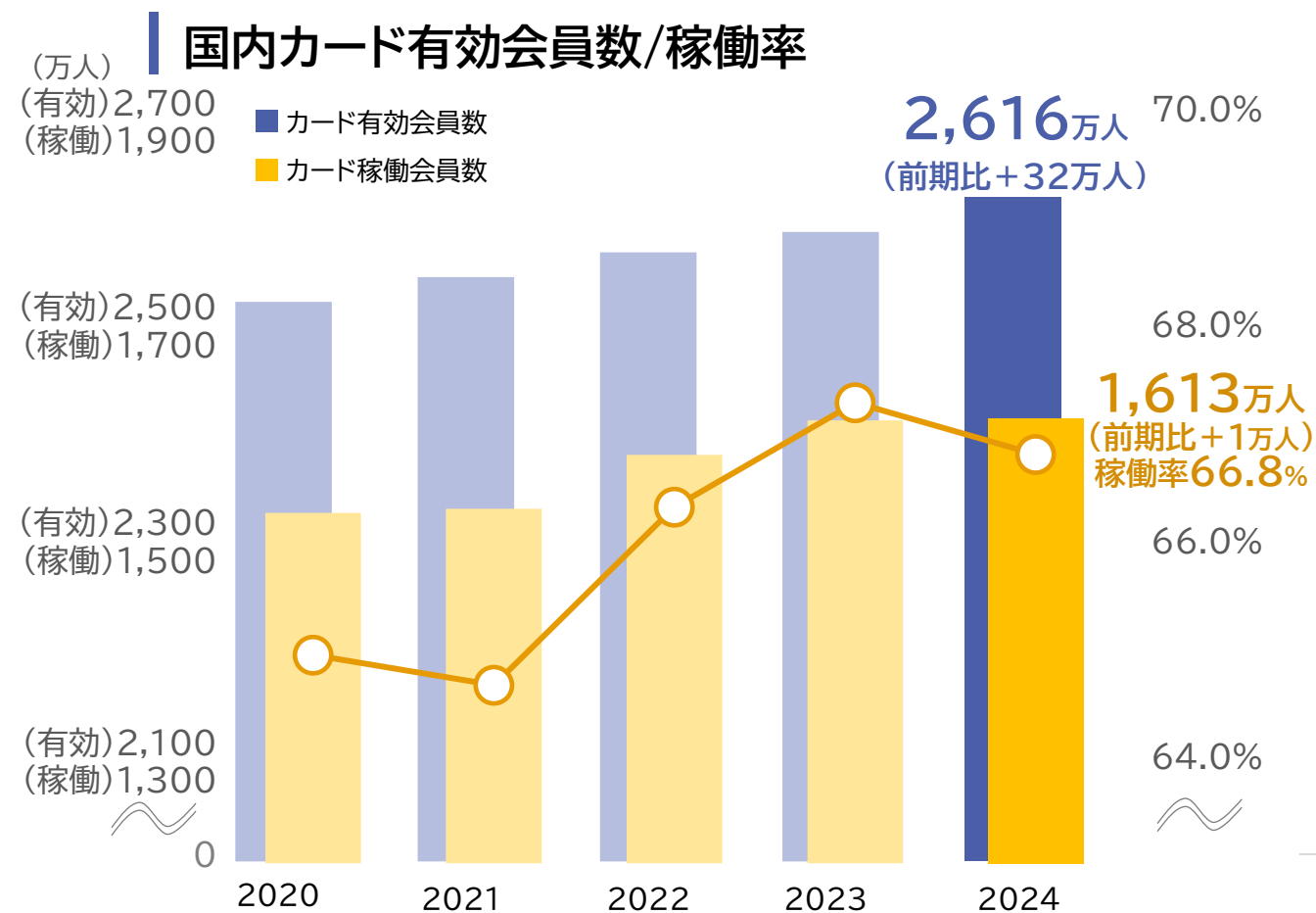
各商品・サービスを利用いただくお客さまをID化
データ分析に基づく、さらなる提供価値向上を図る



※従来基準の有効会員は、クレジットカード会員に一部IDを含み開示
※基準見直し後の過去数値については、決算補足資料(Factbook)に掲載

[国内] クレジットカード・AEON Pay

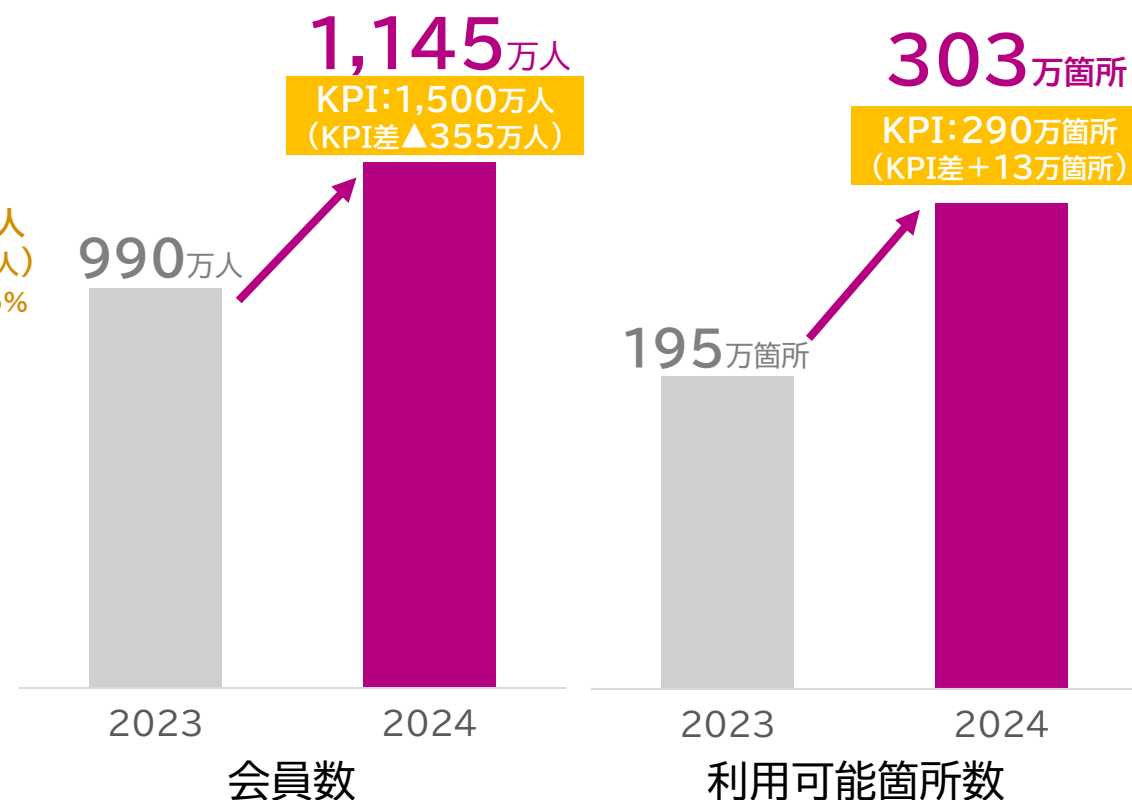
- カード有効会員数は32万人増加。稼働会員数の増加・稼働率向上に向け取り組む
- AEON Payは会員数、利用可能箇所ともに順調拡大。利用可能箇所はKPIを達成



AEON Pay会員数・利用可能箇所数

会員基盤

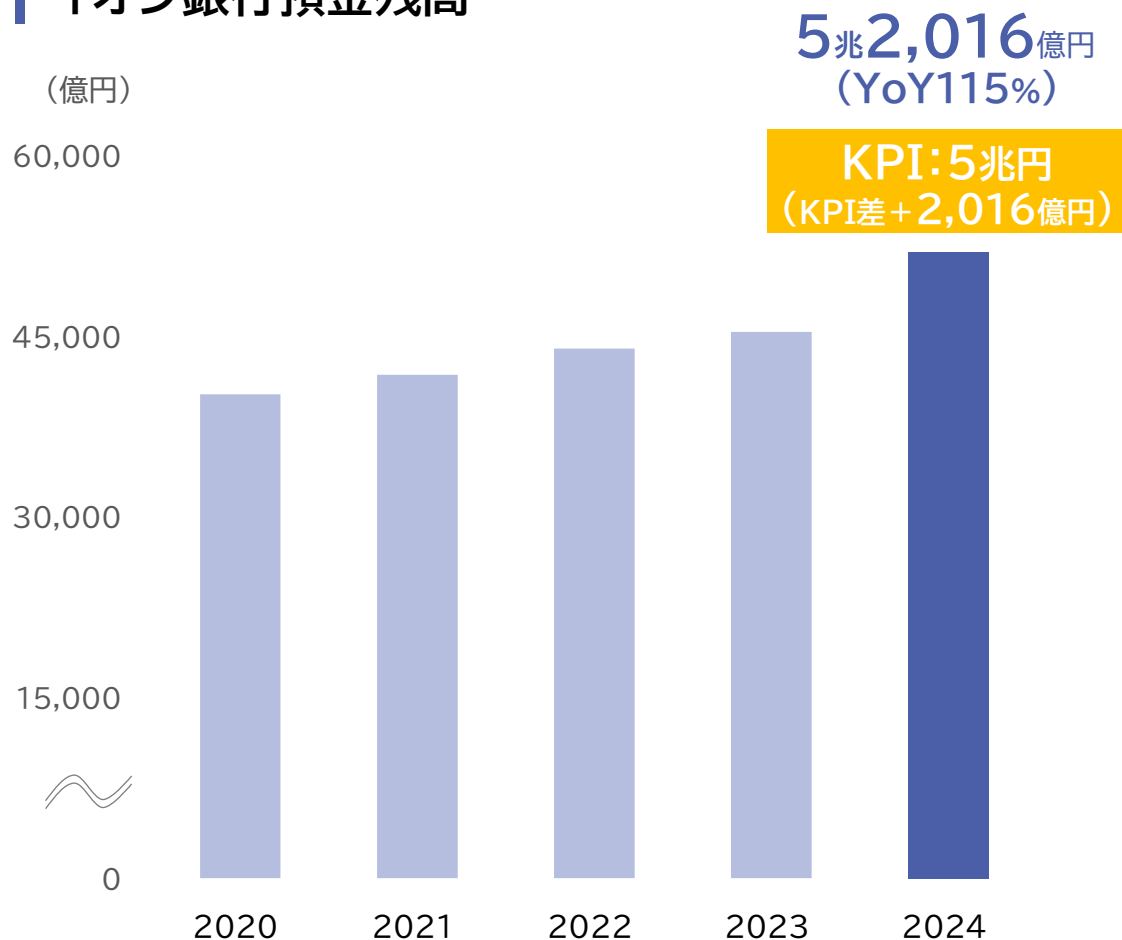
決済基盤



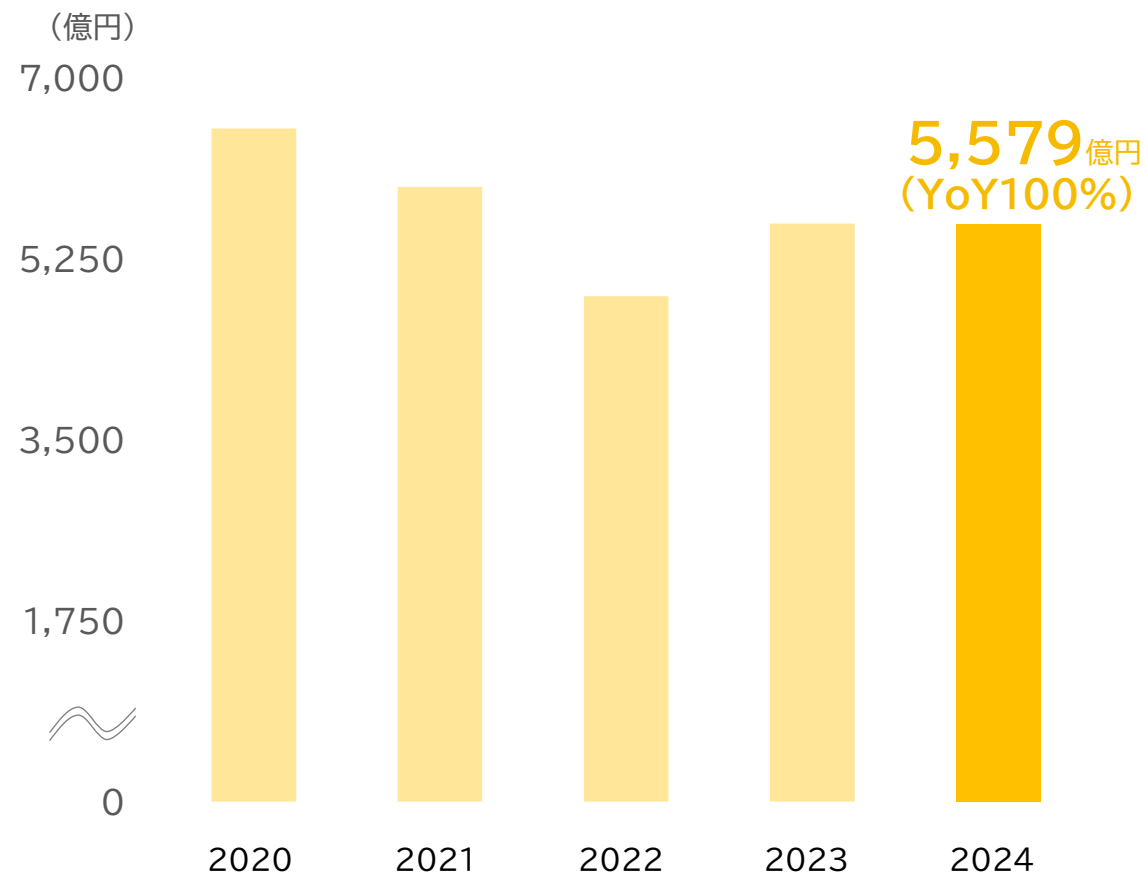
[国内] 銀行業容

- 冬の定期預金キャンペーンによりYoY115% 期首差6,622億円増となり過去最高
- 金利以外のイオンの金融としての独自のメリットを訴求 住宅ローン取扱高は前年同水準

イオン銀行預金残高



住宅系ローン取扱高



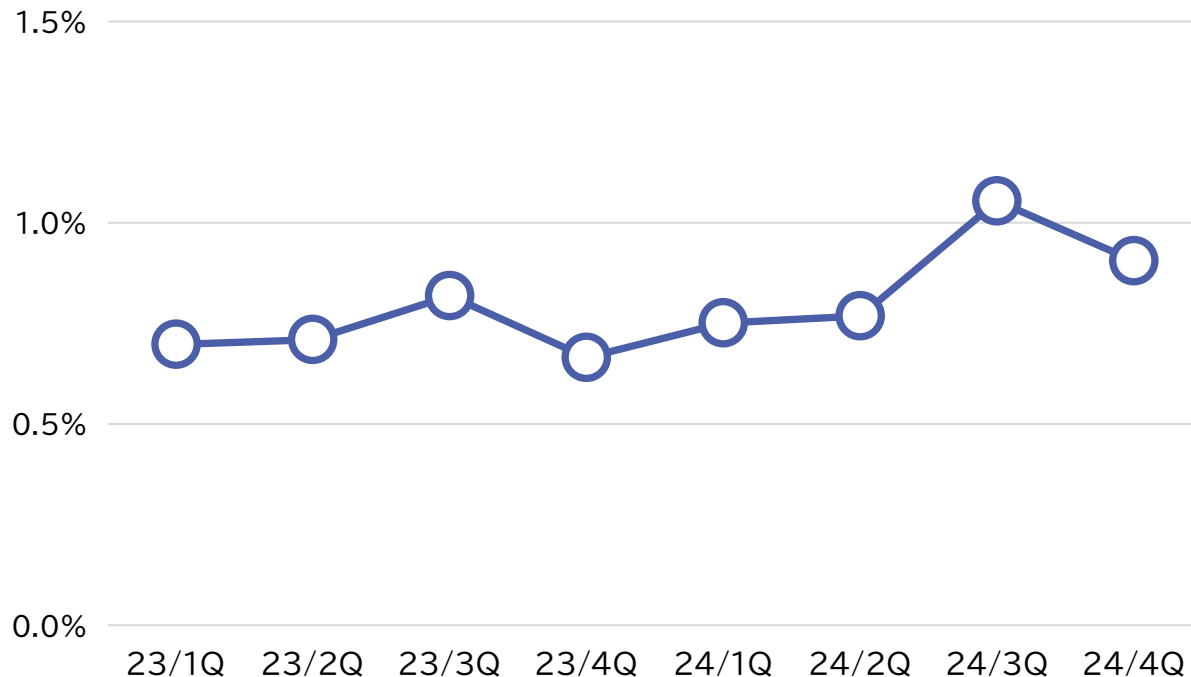
〔国内〕貸倒関連費用のコントロール

生産性
(費用コントロール)

- 貸倒関連費用率は1%未満に低下
- セキュリティ体制強化に加え外部団体と連携深化を図り、最新の情報共有・対策を実施

貸倒関連費用率の四半期推移

※リボ・分割、キャッシング、無担保ローンの合計残高に対する貸倒関連費用率



安心・安全な利用環境の構築



本人認証

- ネット経由のカード入会時のマイナンバーカードでのe-KYC認証
- 3Dセキュア(ECにおける本人認証)のSMS認証による登録会員拡大



モニタリング

- AI等の各種スコア(ルール・リスクベース)による不正利用検知システム
- 365日、24時間体制でのモニタリング



外部団体との
連携

- 各業界団体での情報共有、セキュリティ強化への反映
- 日本サイバー犯罪対策センター(JC3)正会員加入、最新情報の活用

〔国際〕 セグメント別 業績ハイライト

- ・ 営業収益は3エリアともに過去最高 国際事業合計では営業利益も増益で着地
- ・ 会計期間(3か月間)ではマレー圏が増益に転換し、全エリアで増益

通期 (12ヶ月間)	国際事業		中華圏		メコン圏		マレー圏	
		YoY		YoY		YoY		YoY
営業収益	2,225 億円	115 %	355 億円	116 %	957 億円	107 %	911 億円	125 %
営業利益	387 億円	101 %	93 億円	106 %	160 億円	101 %	134 億円	99 %
<参考> 貸倒関連費用	690 億円	120 %	87 億円	128 %	316 億円	105 %	286 億円	141 %

4Q会計 (3ヶ月間)	国際事業		中華圏		メコン圏		マレー圏	
		YoY		YoY		YoY		YoY
営業収益	584 億円	116 %	95 億円	113 %	241 億円	108 %	246 億円	128 %
営業利益	133 億円	114 %	29 億円	118 %	57 億円	101 %	46 億円	130 %
<参考> 貸倒関連費用	155 億円	130 %	20 億円	102 %	61 億円	109 %	73 億円	169 %

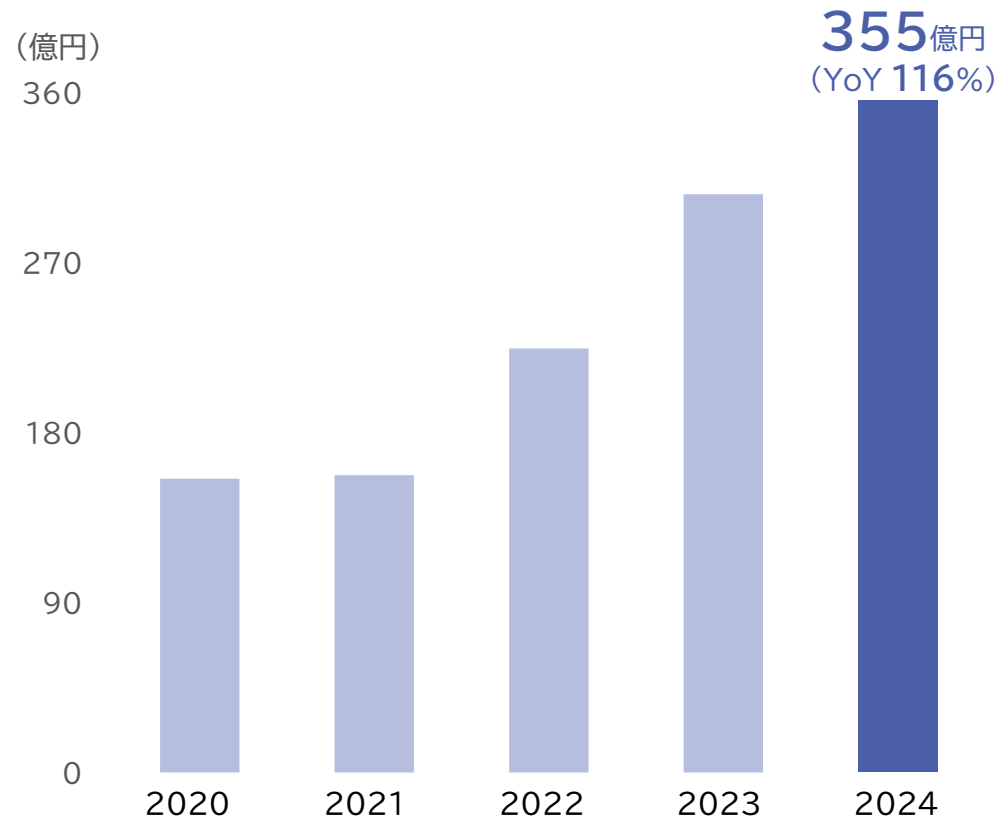
期中平均レート ※()内は前年同期差

HKD : 19.57円(7.0%円安) THB : 4.36円(6.9%円安) MYR : 33.74円(8.7%円安)

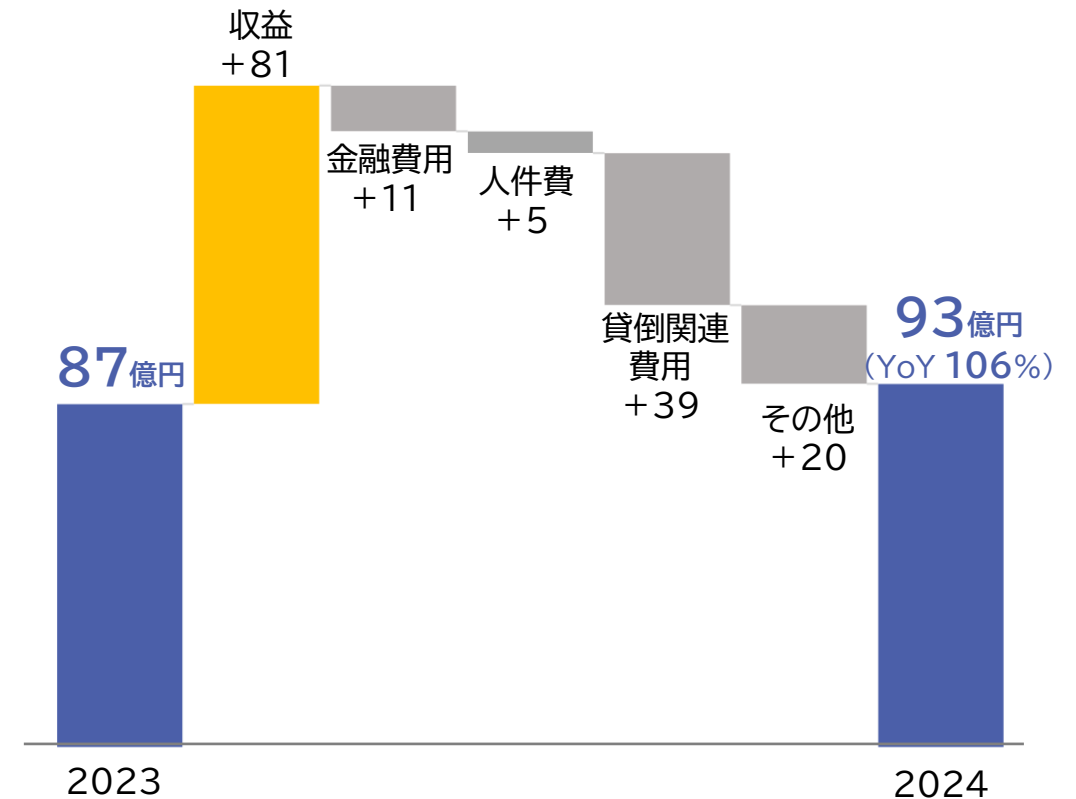
〔国際〕 中華圏の業績ハイライト

- 北上消費需要の取込みなど環境変化への対応が奏功し収益は拡大
- 審査・途上与信強化とリストラクチャリング契約後の支払状況管理により、貸倒関連費用を抑制し増益

営業収益



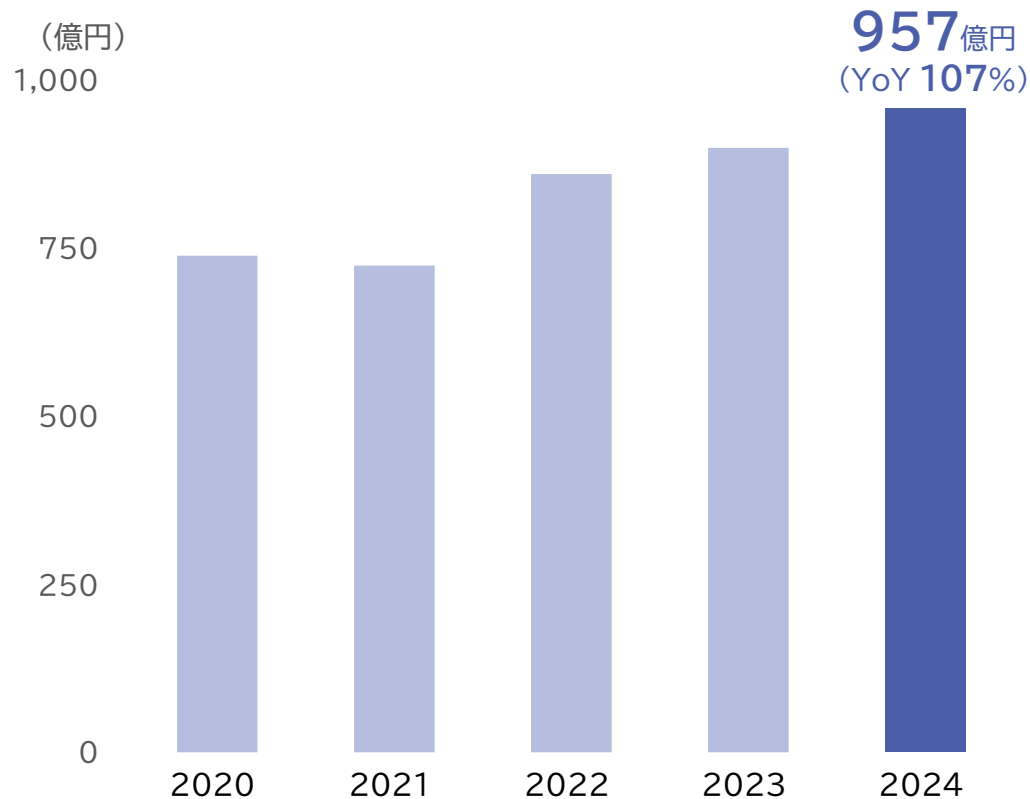
営業利益前期差内訳



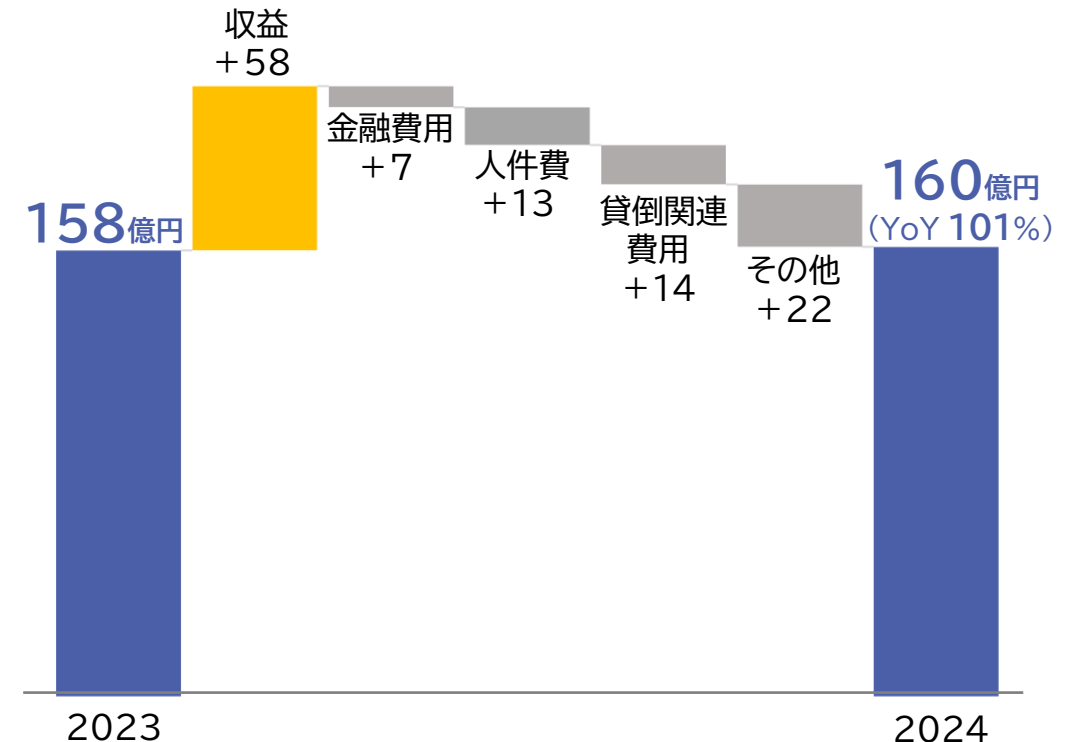
〔国際〕 メコン圏の業績ハイライト

- ・ 経済環境には引き続き注視が必要も、新たなクレジットカードや中古車ローンの展開により取扱高が拡大
- ・ 人件費や貸倒関連費用は増加も、営業利益は増益

営業収益



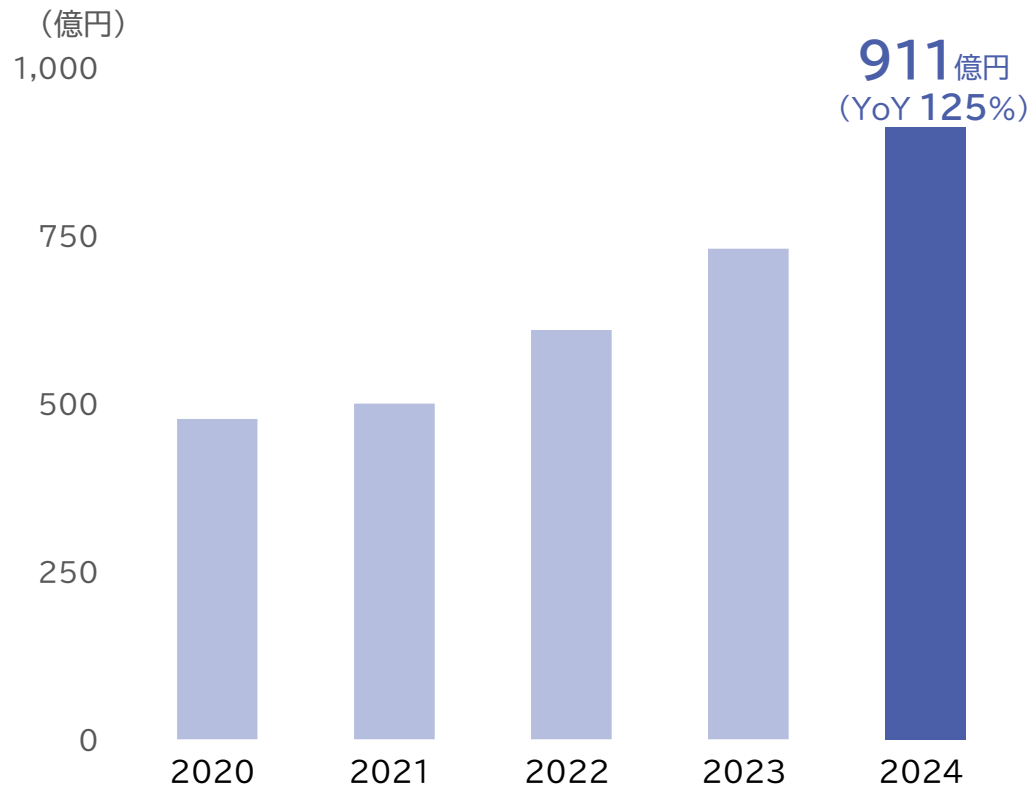
営業利益前期差内訳



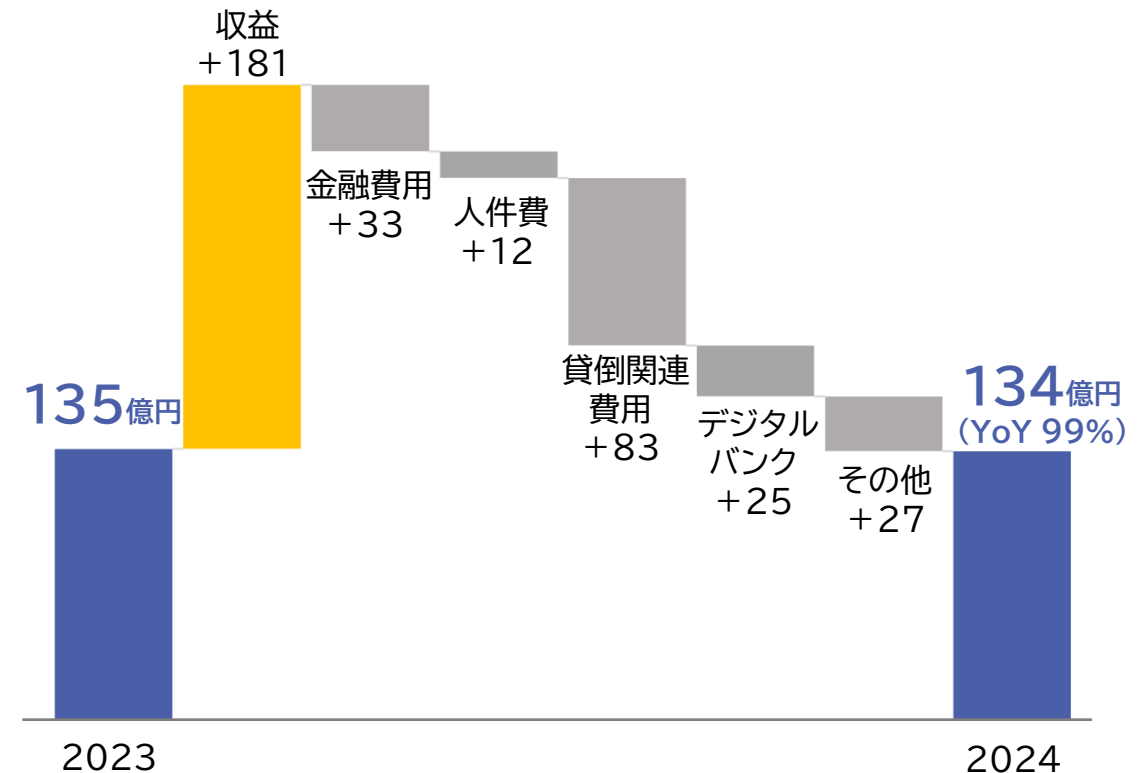
〔国際〕 マレー圏の業績ハイライト

- 主力の個品割賦に加え、個人ローンの取扱高・残高が増加し、収益はYoY125%と拡大
- 債権残高拡大に伴う貸倒関連費用やデジタルバンク開業に伴う費用増も、営業利益はほぼ昨年並み

営業収益



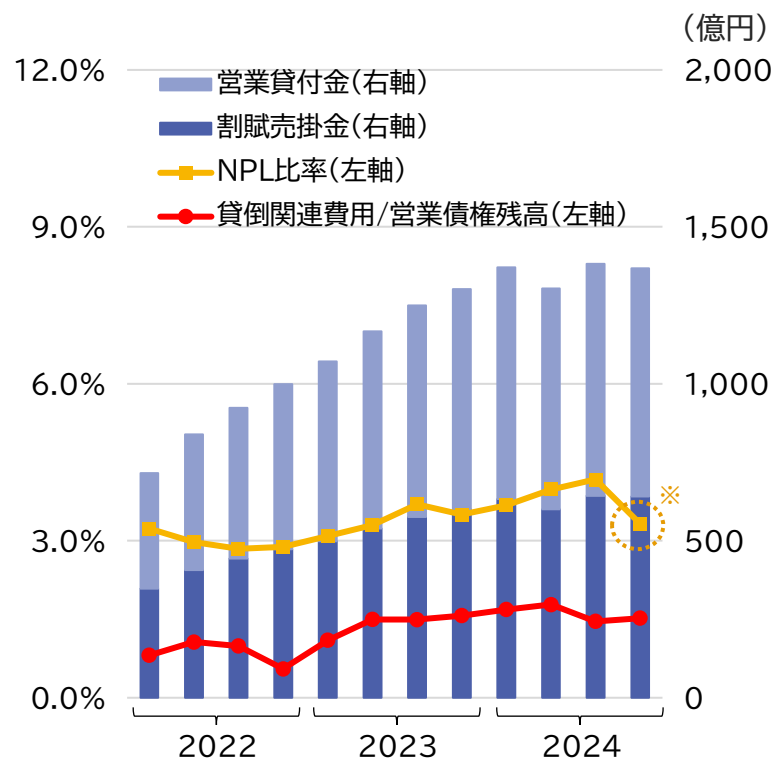
営業利益前期差内訳



[国際] 上場子会社の債権残高およびNPL推移

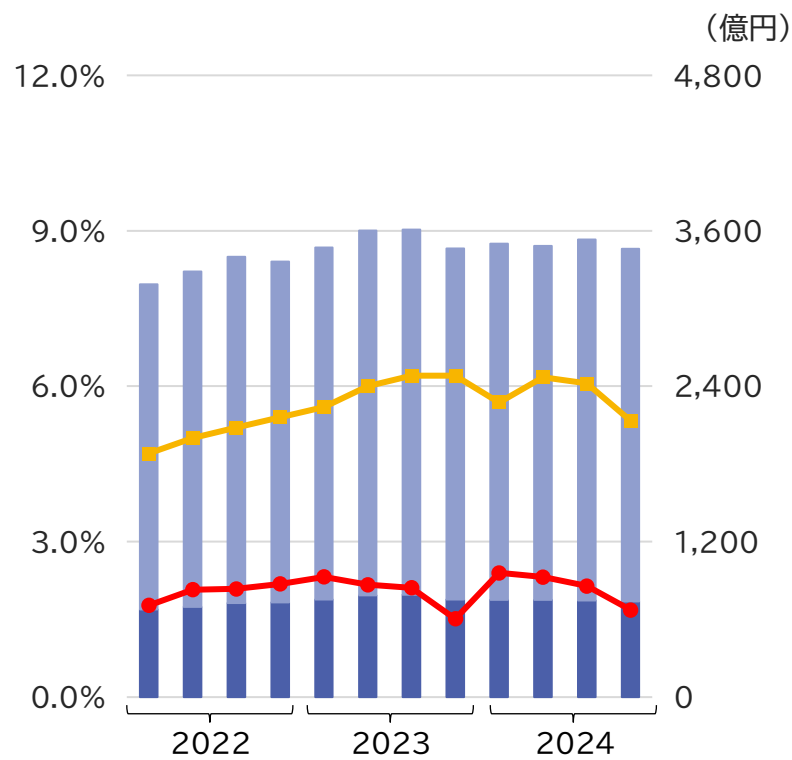
- 香港:市場全体の破産申請件数は高止まりも、貸倒関連費用率は安定して推移
- タイ :NPL比率は延滞債権売却により減少 貸倒関連費用率は洪水による引当金の戻りにより低下
- マレーシア:債権残高の積み上げが好調に推移し、NPL比率も安定

■ ACSA(香港)

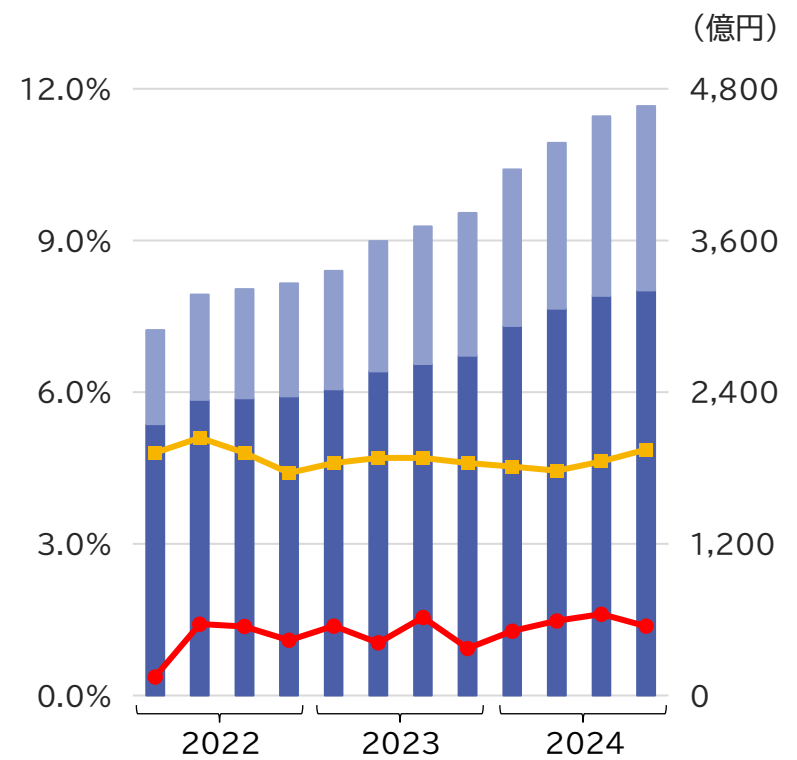


※リストラチャリング契約債権のNPL認識基準の見直し影響

■ AEONTS(タイ)



■ ACSM(マレーシア)

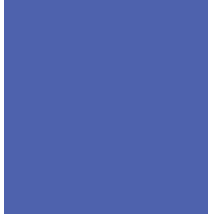


期末日レート ※()内は前四半期差

HKD : 19.23円(0.7%円高)

THB : 4.38円(0.0%)

MYR : 33.49円(1.5%円高)



企業価値向上にむけた取り組み

中期経営計画「第二の創業：バリューチェーンの革新とネットワークの創造」の位置づけ

Our Purpose

金融をもっと近くに。一人ひとりに向き合い、
まいにちの暮らしを安心とよろこびで彩る。

～2020年度
拡大フェーズ

2021～2025年度
変革フェーズ

2026年度～
成長フェーズ

The Goal for
2030
ありたい姿

第二の創業
バリューチェーンの革新とネットワークの創造

- ✓ カード会員の拡大
- ✓ 国内事業の総合金融化
(銀行業・保険業の開始)
- ✓ 海外展開国の拡大

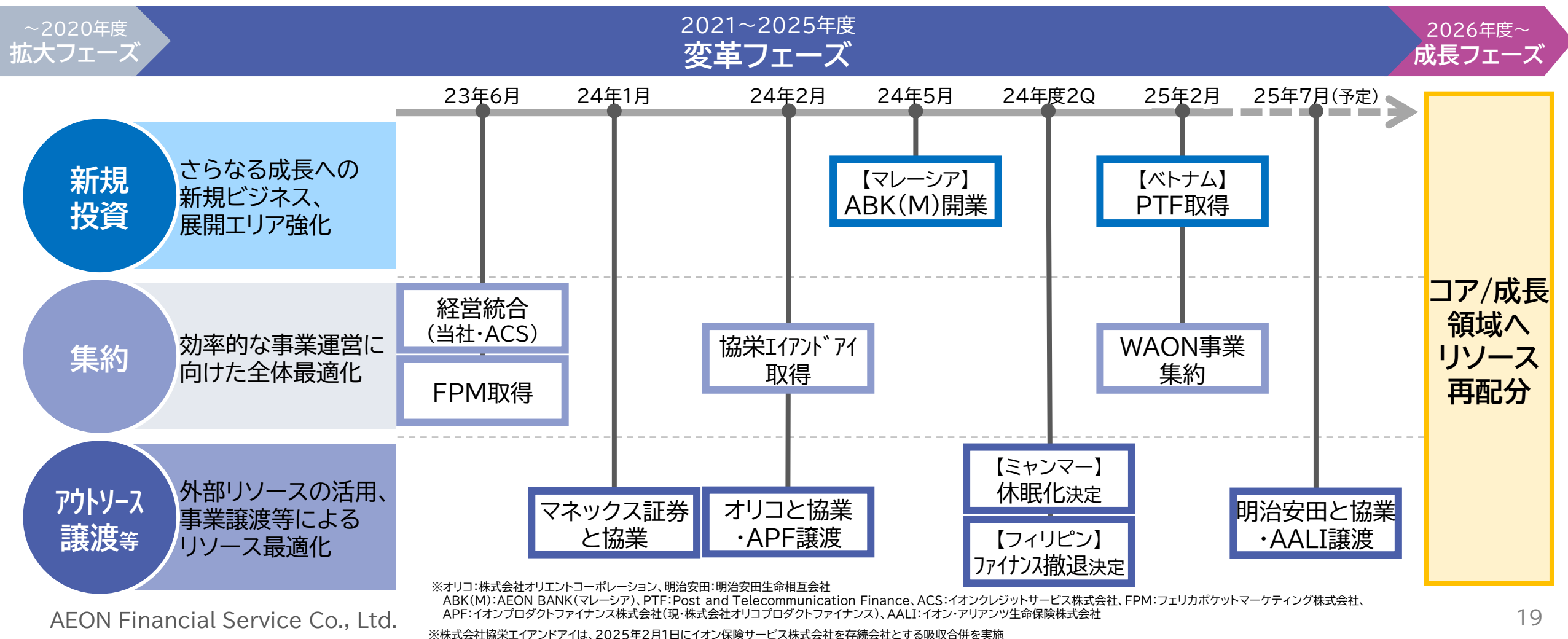
- ✓ 事業環境の変化に応じたポートフォリオの見直し
- ✓ デジタル技術を活用した新たなビジネスモデル構築
- ✓ イオン生活圏の創造に向けたインフラ強化
- ✓ 金融政策変更に伴う銀行の活用強化

- ✓ アジアを中心とした海外展開国で
各地域に根差した金融サービス提供
- ✓ お客さまの「不」を解決・解消する
一人ひとりの暮らしを支える企業へ

「金融をもっと近くに」する
地域密着のグローバル企業

[事業ポートフォリオの見直し] これまでの取り組み

- 企業価値向上に向けた事業ポートフォリオの見直しを継続推進
- 生命保険事業イオン・アリアンツ生命保険の株式(85.1%)を、明治安田へ譲渡することを決定



明治安田とのパートナーシップ締結

- 明治安田、イオンと包括的パートナーシップ契約締結、お客さまへの提供価値拡充を図る
- 双方の経営資源を活用し、相互送客や新たな商品・サービス提供につなげる



明治安田

約1.6万に広がる
リアル店舗

約3,600万人の
顧客ID



カード事業の共同運営

提携カード発行や、
保険契約者さまへのご案内等

データ活用による 新たな価値共創

双方のデータを活用した
新たな商品・サービスの開発

パートナーシップによる新たな価値の創出

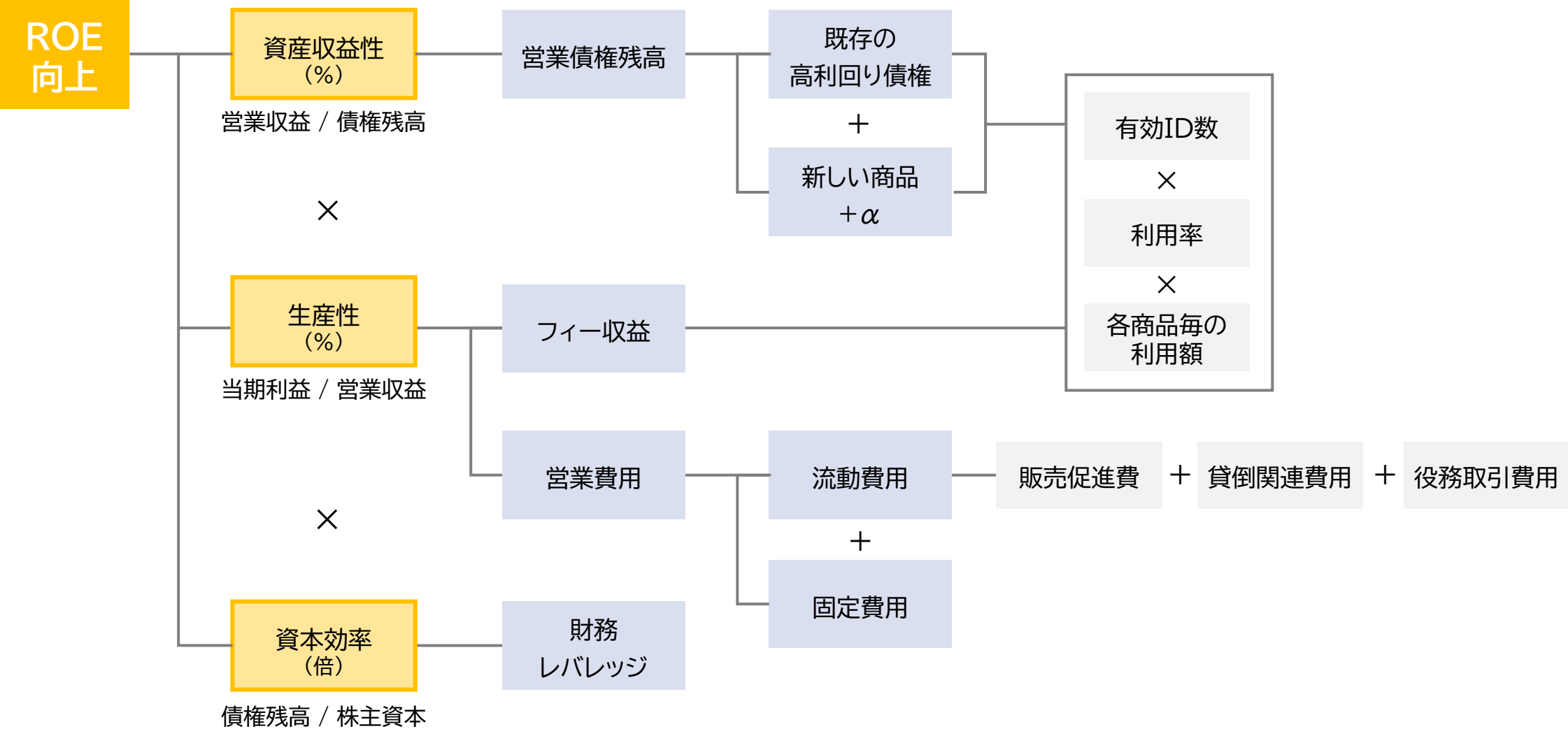
イオン・アリアンツ生命保険の
明治安田への譲渡
持分比率85.1%を譲渡
経営資源の最適化

健康増進・資産形成支援
イオングループの店舗網での
セミナー・イベント等の開催

約3.6万人の
MYリンクコーディネーター
(営業職員)のネットワーク

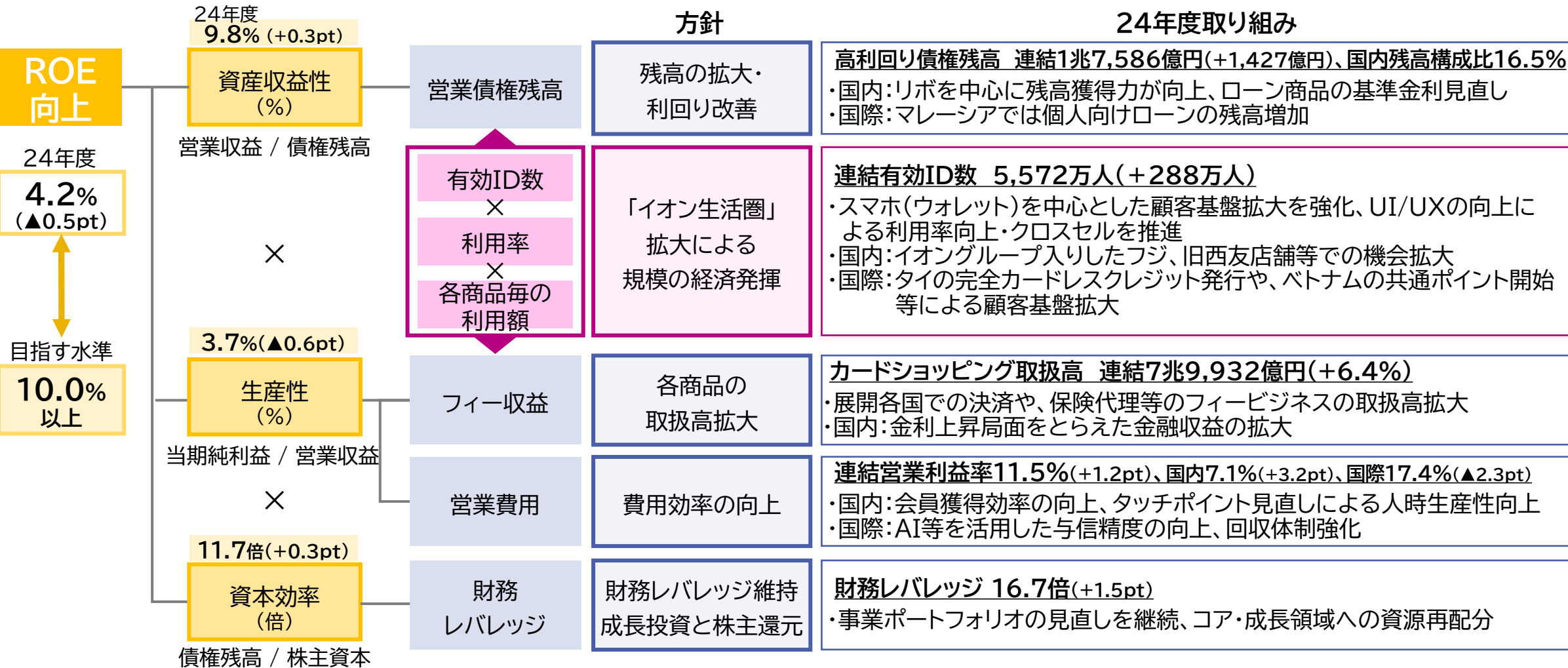


ROE向上に向けた考え方



[ROE向上] 24年度 取り組み進捗

- ROEは4.2%(YoY▲0.5pt)。目指す水準とギャップがあり、成長軌道への回復が急務
- 資産収益性・生産性向上に資する「有効ID」「利用率」「利用額」向上のため、「イオン生活圏」拡大を一層強化

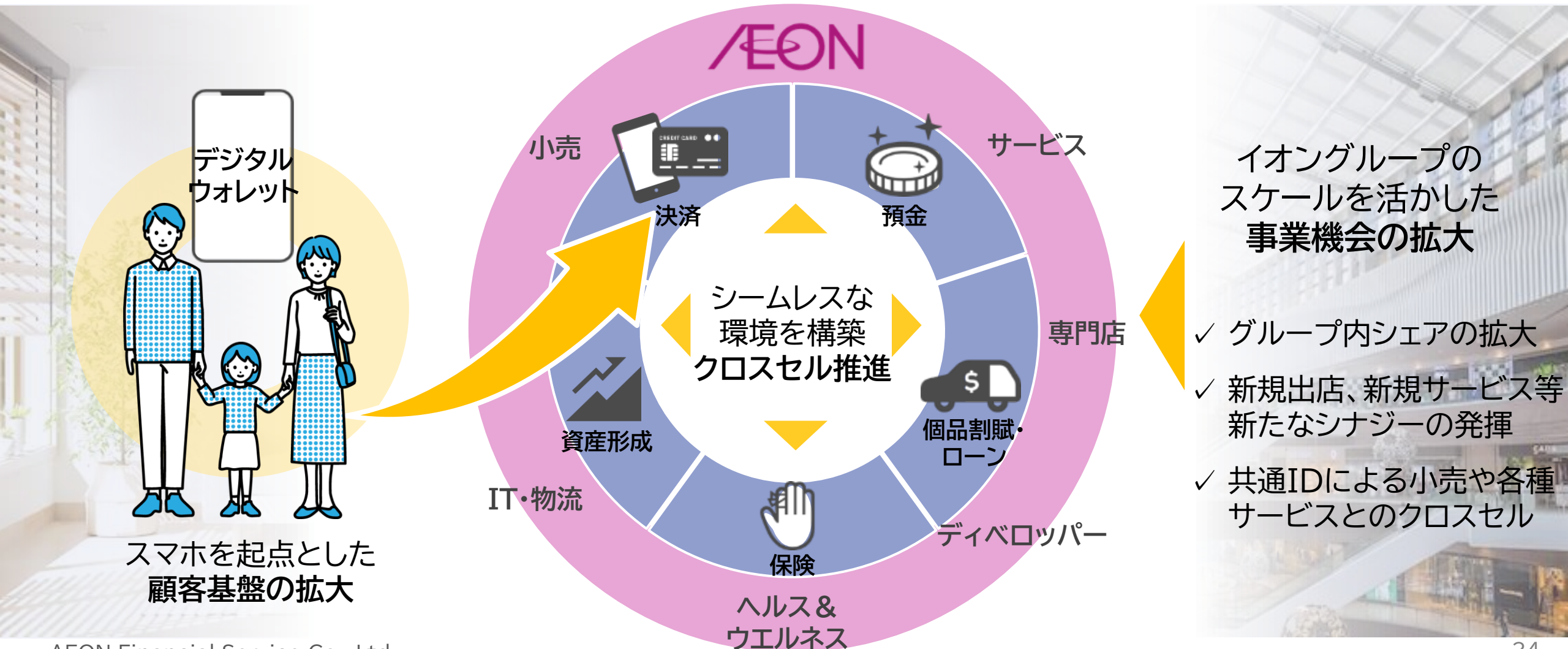


- 展開各国にて、地域に根差した金融サービスの提供を通じ、地域・加盟店・提携先をつなぐインフラへ
- 日本およびアジア各国で連携し、ボーダレスな顧客体験を生むイオン生活圏を構築



デジタルウォレット(スマホ)を起点としたタッチポイント構築

- 身近な接点であるデジタルウォレット(スマホアプリ)を起点とし、顧客基盤の拡充、シームレスな利用環境の構築による各金融サービスへのクロスセルを進める



[国内] AEON Payを起点とした顧客体験

- WAONバリュイシュア事業※を集約し、顧客・加盟店網の拡大および地域連携を強化
- 新たな購買体験の創造に取り組み、AEON Payを起点とした基盤の拡充を図る

AEON PayとWAONの融合

コード決済

タッチ決済

顧客・加盟店基盤の拡大

コード/タッチどちらも
利用可能な環境構築



地域等との連携強化

「ご当地(地域への寄付)」機能搭載
地域連携を一層強化



新AEON Pay



新たな購買体験の創造

生体認証で新たな顧客体験

「手のひら決済」搭載
手ぶらで決済を可能に



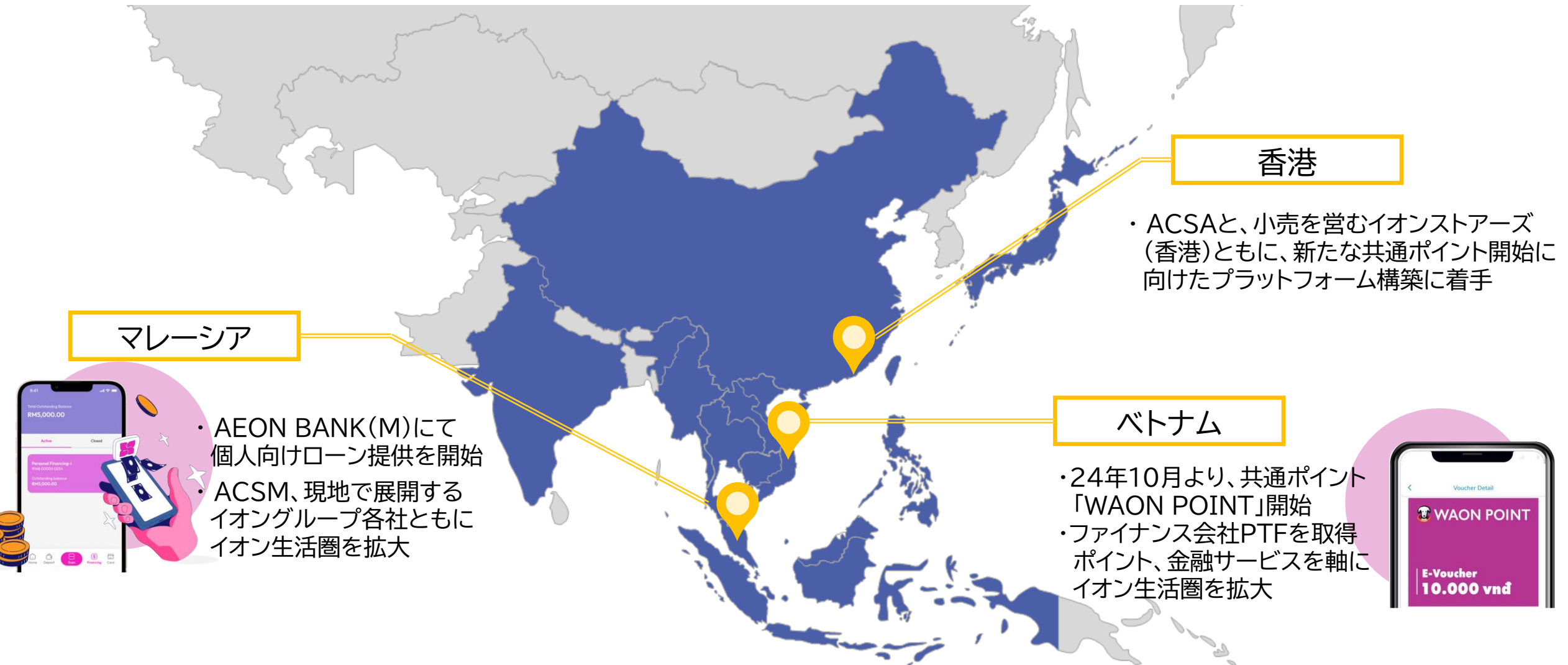
アジアとつながる決済網

各国のコード決済と連携
来日時もいつもの決済を



〔国際〕イオン生活圏の拡大とグループシナジーの発揮

- ・ 展開各国において現地イオングループ企業との共通ポイントの開始等、連携を一層強化



人材に関する取組

- ・ 変化する環境下で重要性の増す「人材」について、人を活かし、人の成長を支える基盤整備への取り組みを加速する

Our Purpose

金融をもっと近くに。一人ひとりに向き合い、
まいにちの暮らしを安心とよろこびで彩る。

The Goal for 2030 ありたい姿

「金融をもっと近くに」する 地域密着のグローバル企業

人材への考え方

従業員の人間性と多様性を尊重し、個々の能力が最大限
に発揮されるマネジメントシステムを整備する

実現に向けた人材への投資

海外・DX領域の強化

専門的知見が必要な領域の
積極採用
グループ共通教育の強化

リーダー育成・キャリア支援

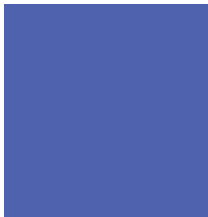
次世代リーダー育成に向けた
国内外の人材交流
キャリア形成支援や成長体験の
機会整備

人材ポートフォリオ

「コア領域」「成長領域」への
リソースの適正配分に向けた
国内外全体での
マネジメントプラットフォーム整備

共通人事制度

国内での共通人事制度整備
挑戦を評価する制度への転換



業績予想及び配当予想

2025年度 KPI

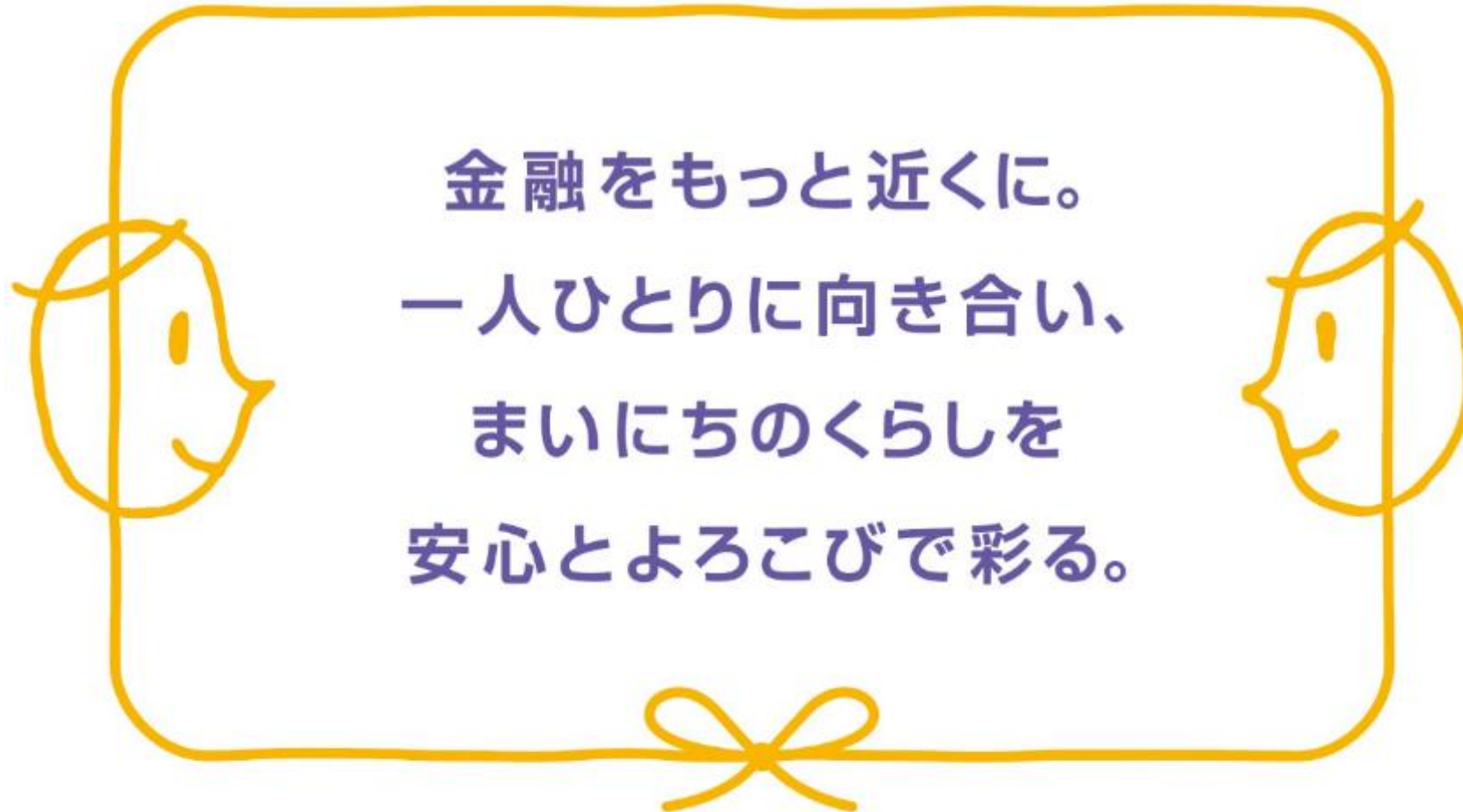
- ・ イオン生活圏の拡大による資産収益性・生産性向上を通じ、持続的なROEの向上を目指す

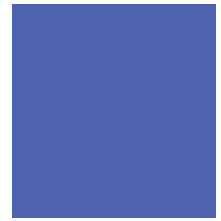
方針	国内KPI	
	指標	25年目標
「イオン生活圏」拡大による 規模の経済発揮	AEON Pay利用可能場所	+100万箇所
残高の拡大・利回り改善	高利回り債権残高	+550億円
各商品の取扱高拡大	自社決済取扱高	10兆円(+0.5兆円) カード:8兆円、電子マネー:2兆円
	銀行預金残高	+ 5,000億円

2026年2月期 業績予想及び配当予想

	連結	YoY				
			国内	YoY	国際	YoY
営業収益	5,700 億円	107 %	3,300 億円	105 %	2,400 億円	108 %
営業利益	570 億円	93 %	190 億円	85 %	390 億円	101 %
経常利益	570 億円	91 %	1株あたり配当金		配当性向	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	210 億円	108 %	年間: 53 円	中間: 25 円 期末: 28 円	54.5 %	

Our Purpose





Appendix

2025年2月期 4Q会計期間(3ヶ月間) 連結業績ハイライト

	連結	YoY	国内	YoY	国際	YoY
営業収益	1,444 億円	111 %	866 億円	108 %	584 億円	116 %
営業利益	235 億円	98 %	100 億円	82 %	133 億円	114 %
経常利益	236 億円	98 %	—	—	—	—
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	57 億円	48 %	—	—	—	—

バランスシートの状況

(単位:億円)	FY 2024			FY 2024	
	通期実績	期首増減		通期実績	期首増減
現金預け金	8,147	+1,492	預金	52,062	+6,678
営業貸付金	9,889	+701	買掛金	3,178	+492
銀行業における 貸出金	26,704	+3,312	有利子負債 (預金除く)	13,092	▲ 38
割賦売掛金	17,473	▲ 961	その他	3,374	+861
貸倒引当金	▲ 1,316	▲ 109	負債合計	71,707	+7,994
その他	16,704	+3,713	純資産合計	5,896	+153
資産合計	77,603	+8,148	負債及び 純資産合計	77,603	+8,148

セグメント別業績

(単位:億円)	国内計			国際計				連結計
	※1	リテール	ソリューション	※1	中華圏	メコン圏	マレー圏	※1
営業収益	3,131	1,933	1,925	2,225	355	957	911	5,332
前期比	107%	112%	101%	115%	116%	107%	125%	110%
営業利益	222	105	98	387	93	160	134	614
前期比	191%	224%	117%	101%	106%	101%	99%	123%
営業利益率	7.1%	5.4%	5.1%	17.4%	26.2%	16.7%	14.7%	11.5%
前期差	+3.2pt	+2.7pt	+0.7pt	▲2.3pt	▲2.5pt	▲0.9pt	▲3.8pt	+1.2pt

(参考) 債権流動化による収益影響 236 億円(前期差+31億円) ※2

※1 国内計及び国際計は、各事業に属するセグメント間取引の相殺消去後であり、連結計には、本社・機能会社および連結消去額を含む

※2 23年度より、流動化収益の計上方法を一部変更 なお、従来方式での収益影響は218億円(前期差+38億円)

エリア別業容

(単位:億円)		取扱高	前年同期比	営業債権残高 (流動化前)	期首増減
国内	クレジットカード	78,635	106%	18,604	+1,440
	ショッピング	74,925	106%	14,325	+1,284
	(うちリボ・分割)	-	-	3,615	+507
	キャッシング	3,710	100%	4,279	+155
	住宅ローン	5,579	100%	38,647	+3,041
	その他	-	-	12,881	+1,118
	国内計	-	-	70,133	+5,599
国際	クレジットカード	6,906	119%	3,010	+51
	ショッピング	5,007	117%	1,560	+48
	キャッシング	1,899	127%	1,449	+3
	個品割賦	1,678	118%	3,455	+566
	パーソナルローン	2,223	108%	3,867	+658
	その他	-	-	5	+5
	国際計	-	-	10,338	+1,282

海外上場3社 通期業績（現地通貨）

		FY 2023	FY 2024	
		通期実績	通期実績	前期比
AEON CREDIT SERVICE (ASIA) HK\$' 000	Revenue	1,623,321	1,759,316	108%
	Profit before tax	472,528	476,816	101%
	Profit for the period	392,270	400,478	102%
AEON THANA SINSAP (THAILAND) BAHT' 000	Revenue	21,965,263	22,101,767	101%
	Profit before tax	4,161,381	3,847,634	92%
	Profit for the period	3,337,856	2,950,505	88%
AEON CREDIT SERVICE (M)Berhad RM' 000	Revenue	1,912,491	2,200,723	115%
	Profit before tax	581,749	581,838	100%
	Profit for the period	424,018	370,611	87%

海外上場3社 通期業績（円換算）

		FY 2023	FY 2024		為替レート
		通期実績	通期実績	前期比	
AEON CREDIT SERVICE (ASIA)	Revenue	296億円	344億円	116%	<u>為替（円 / HKD）</u> ・ FY2023 : 18.29円 ・ FY2024 : 19.57円
	Profit before tax	86億円	93億円	108%	
	Profit for the period	71億円	78億円	109%	
AEON THANA SINSAP (THAILAND)	Revenue	896億円	963億円	108%	<u>為替（円 / THB）</u> ・ FY2023 : 4.08円 ・ FY2024 : 4.36円
	Profit before tax	169億円	167億円	99%	
	Profit for the period	136億円	128億円	94%	
AEON CREDIT SERVICE (M)Berhad	Revenue	593億円	742億円	125%	<u>為替（円 / MYR）</u> ・ FY2023 : 31.04円 ・ FY2024 : 33.74円
	Profit before tax	180億円	196億円	109%	
	Profit for the period	131億円	125億円	95%	

国際事業の各種取扱高、債権残高の状況

(単位:億円)		中華圏(香港)		メコン圏(タイ)		マレー圏		国際事業	
			前期比 (増減)		前期比 (増減)		前期比 (増減)		前年比 (増減)
クレジット カード	取扱高	2,659	120%	3,448	116%	798	130%	6,906	119%
	債権残高	1,054	+55	1,605	▲80	350	+77	3,010	+51
個品割賦	取扱高	-	-	280	127%	1,397	117%	1,678	118%
	債権残高	-	-	413	+120	3,042	+446	3,455	+566
個人ローン	取扱高	301	90%	1,141	104%	779	122%	2,223	108%
	債権残高	313	+10	2,088	+330	1,464	+317	3,867	+658
合計	取扱高	2,961	116%	4,870	114%	2,976	122%	10,808	117%
	債権残高	1,367	+66	4,108	+369	4,857	+841	10,333	+1,277

セグメント別貸倒及び国内利息返還損失引当金の状況

【貸倒引当金】

(単位:億円)	国内計	リテール	ソリューション	国際計	中華圏	メコン圏	マレー圏	連結計
期首貸倒引当金残高	556	30	530	643	47	358	237	1,207
貸倒関連費用 (引当金繰入・損失)	288	▲ 5	294	690	87	316	286	978
貸倒償却額 (移管債権等含む)	271	7	264	597	83	272	241	868
期末貸倒引当金残高	572	17	559	735	50	401	283	1,316

※参考 国内子会社の期末残高
<リテール> イオン銀行: 17億円
<ソリューション> イオンフィナンシャルサービス: 546億円
イオン住宅ローンサービス: 9億円

※個品割賦事業譲渡による減少
92億円含む

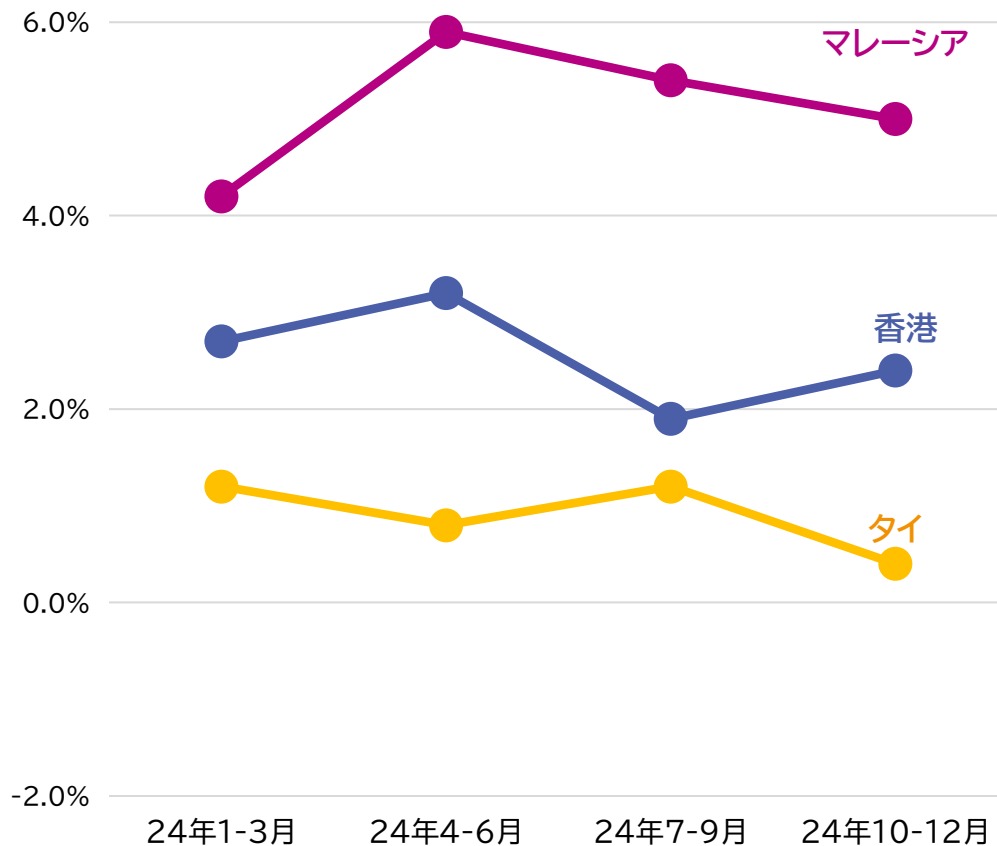
【利息返還損失引当金】

(単位:億円)	FY2023 通期実績	FY2024 通期実績
期首残高	48	25
繰入額	-	-
利息返還額	22	15
期末残高	25	9

〔国際〕 各エリア別の環境

- マレーシアでは、民間消費が好調に推移し、2月より最低賃金も引き上げ
- 一方、香港は内需の減少や個人の破産申請件数の高止まりが継続、タイはGDP成長率も停滞

実質GDP成長率推移



マレー圏(マレーシア)

- 2期連続で減速も、個人消費は前四半期を上回る
- 2月より最低賃金が13.3%引き上げとなり、失業率もコロナ後最低(3.2%)で推移

中華圏(香港)

- 物価の安い中国での消費(北上消費)が増加し、内需の減少が継続 個人消費は改善傾向も依然としてマイナス
- 香港全体での個人破産申請件数は依然として増加

メコン圏(タイ)

- 自動車ローンの審査厳格化等により消費が減少し、民間消費の成長鈍化が継続 輸出は農業・製造業ともに回復
- 政府の1万バーツ配布については、第3弾として25年4～6月に16～59歳を対象に配布予定

本資料のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかわるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定、算出されたものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクをはじめとする様々な不確実要素を含んでおります。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があります。



イオンフィナンシャルサービス